

「全体全般全権全能の日」 宣布

(1999年8月17日)

ヤハウェが、勝利の真の父母におなりください。(「ヤハウェが、勝利の真の父母におなりください」)。ヤハウェが、勝利の真の師におなりください。(「ヤハウェが、勝利の真の師におなりください」)。ヤハウェが、勝利の真の王の王におなりください。(「ヤハウェが、勝利の真の王の王におなりください」)。地上の真の父母は、この三大祝福の主体思想の因縁に、地上で侍り奉ります。(「地上の真の父母は、この三大祝福の主体思想の因縁に、地上で侍り奉ります」)。アーメン！ その次に万歳しましょう。神様、万歳！ 真の父母、万歳！ 「三・十節」、「七・八節」解放、「全体全般全権全能」解放圏の勝利、万歳！

きょうこの日(七・八節)は、「全体全般全権全能」の日です。神様がそのような顕現をなし得る日として宣言するのです。これからは、絶対信仰、絶対愛、絶対服従のままにやっていたら、万事が完成に向かうということを信じるように願います。

きょうは「全体全般全権全能」を宣布した日です。神様がそのように顕現なさる日です。ヤハウェがそのような顕現をするのです。今まで隷属し、迫害され、讒訴された子女たちの受難の道に、すべての責任を負い、救ってあげ、赦してこられました。そのすべてを越えて、神様が思いどおりにできる時代に入っていくことを宣布しました。心配するなというのです。すべてを委ねよというのです。すべてを委ねて絶対信仰！ 分かりましたか？ すべてを委ねました。絶対信仰、そして絶対愛です。それから、何ですか？ 絶対服従です。これを突破して上がっていきけるサタンの権勢がありません。神様ご自身も手をつけられないのです。すべてを終結する一標語として立てたということを知って、そのまま進んでいけば、皆さんには万事が勝利あるのみです。アーメン！

コディアックを愛さなければなりません。南米とコディアックが連結されるのです。「焦点聖地」、「根源聖地」、「勝利聖地」と連結されるのです。三数の出発です。三番目を越えて四数を経れば、すべてが終わるのです。

統一教会の宣布のうちで今残ったものは、一つの国を中心とした国家宣布です。国家統一の宣布です。それから天地世界の宣布です。これは主権を中心とした宣布なのです。それをやればみな終わるのです。

「全体」とは、この世界全体のことを言うのです。サタン世界全体です。「全体全般」です。一つになるということです。「全権」とは、サタン世界の全権です。サタンは今まで、国を用いて何でもすることができました。しかし、それは全能ではありません。今から全権の行使が天に移譲され、統一と権威の世界に越えていくのです。そうして「全体」と「全般」が一つになるのです。それから「全権」です。サタン世界の権限以上の能力を持った時代へと進むのです。統一と能力の時代に向かうのです。それで「全体全般全権」です。ですから、神様を中心として地上世界と天上世界が一つになるのです。真の父母を中心として統一的な立て札を持つことによって、ここで一つになるのです。神様が創造のみ業をなさるとき、絶対信仰・絶対愛・絶対服従によって、為に創造されたので、私たちもこのような「全体全般全権全能」の基盤の上に立たなければならないのです。創造本然に帰ってきたので、そこで愛の対象を探すために絶対信仰をもって、絶対愛・絶対服従の心情をもって、投入して忘れてしまうのです。神様がなされたすべてのものを再び探して、私たち自身も神様の代身として、この世界に対して、絶対信仰・絶対愛・絶対服従しなければならないのです。

一つになるので、万事は終わりにするとき、統一がなされて、平和の世界に行くのであります！ こうした結論が出てくるのです。

旧約時代・新約時代・成約時代の全体が供え物です。すべてが分けられてきたのです。分けられたのでないのです。しかし、今やすべてが一つなのです。そして全能の行使として、サタンは何をしたのでしょうか？ 神様までも、ぎゅうぎゅうに縛ってしまいました。真の父母までもその圏内に縛ってきたというのです。そのようなすべての権限が、能力の時代になるので解放されるのです。それで、統一的宇宙と地上天国、天上天国が成就します。

コディアックは何かというと、「七・八節」、天地父母主義、真の父母主義、そして第三回の「七・八節」、それらはすべて七、七、七です。同じなのです。発音が同じです。八も同じです。「七」、「八」とハングルで書くと、すべてその字のパッチムは、「リウル・パッチム」です。節もそうです。「七、八、節」と、すべて「ル」の発音で終わるのです。これがすべて連結するのです。天と地がすべて連結するのです。それが「七・八節」です。きょうは「全体全般全権全能」を宣布した日です。今まで、サタン世界にすべてを分け与えてしまったので、ヤハウエの名によって宣布したのです。真の父母の名をもつ

て、ヤハウエの名によって宣布したので、この標準は永遠に天の国の標準になったということをお皆さんは知らなければなりません。国境はどこですか？ 太平洋を中心としては、どの国がアメリカの国境を接していますか？ ロシアとカナダとアメリカと、そしてどこですか？ 赤道を中心とすれば日本です。これを見ると、日本とX字になっているのがカナダです。また、アメリカとX字で怨讐になっています。父子間の怨讐であり、父母の怨讐として分かれています。これを統一しなければなりません。

ですから、コディアックは海を中心として重要な地です。アメリカが今ソ連と戦争し得る内容は、海を中心としたものです。ソ連とアメリカ、それから日本とカナダです。その地域なのです。カナダも四大漁場のうちに入っています。アメリカがそのような地域です。

ですから、海の管理を誤れば戦争が起きます。戦争をすれば最後には水素爆弾が炸裂するのです。この水素爆弾というのは、地球星を破壊できるものです。それで統一教会は、海を中心として水域の二十キロメートル、二十数を中心として世界のどこでも占領しろというのです。そうすれば世界はその懐に抱かれます。

動物も水を飲まなければなりません。今や水を飲むためには主人の承諾を得なければなりません。こうしたことが起こるのです。そのような意味から水を愛し、海を愛し、海の魚を愛さなければなりません。神様の前に全体をすべて捧げられるもの、分けないで捧げられるもの、審判に引っかからないものは魚しかありません。それで先生は魚をまるごと捧げようと思いました。そして、今まで釣った初物は、供え物として殺さないで生きたまま捧げたのです。

ノアの審判のとき、魚だけが審判を受けなかったのです、それをまるごと捧げるのです。裂きません。それから万物や息子や、すべてのものが天地に引っかかっています。サタンの讒訴圏内にあるので、神様がサタンの讒訴を免れるためには、このような解放的な統一圏を備えなければなりません。このような解放的な統一圏を備えるまでは、免れることができないのです。ですから、「全体全般全権全能」の限界線を越えなければなりません。それで、先生は四年前からそのような話を始めました。「全体全般全権全能」です。それをヤハウエの名によって真の父母が依頼し、この日を何の日として宣布しますか？ 「全般全能宣布の日」です。それを願って、神様が宣布されたので、サタンや被造世界はみな、その命令のもとに存在するようになります。

神様は、被造世界を創造されるときに、絶対信仰の上で、絶対愛・絶対服従する心情

で臨まれました。ですから、その上で私たちの統一教会は、「父母」という名を持って、天の父母と地の父母を迎える位置で、絶対信仰・絶対愛・絶対服従する立場にあるので、創造理想である愛の家庭を中心として、すべてが一体となって勝利の覇権を立て、愛の主権国家の出発をすることができたのです。そのような時代です。意味のある日です。

それゆえに、神様の主権のもとに、一つの国を形成するのです。神様を中心として皆さんは、真の父母を代行する実権者ですから、地上に祖国光復を実現して、世界統一的な国家に税金を捧げる時が来ました。先生の財布から出たお金によって、皆さん個人個人を助けてはなりません。天のみ旨に従わなければなりません。それゆえに、韓国は韓国で責任を果たし、日本は日本で責任を果たし、米国は米国で責任を果たさなければなりません。そしてこの三つの国は、一つの国なのです。父母の国と兄の国です。

一つの国ですから、国家概念を超えた精神的な武装がなされなければなりません。世界のために生きることのできる代表的な家庭となり、天地のために生きることのできる代表的な家庭になるのです。そのように生きない人は、神様の息子、娘になることができません。神様の眷属けんぞくになることができないのです。

これからは強制してでも言語を統一しなければなりません。真の父母が成したすべての記録を、翻訳されたものを通して読むというのは恥です。天上世界で恥になるのです。天上世界に行けば、神様の命令で、千年、万年蕩滅させられるかもしれないのです。途方もない問題が起きるのです。その峠を超えることができない人は、祖国光復をしたとしても、故郷に帰る道がありません。祖国の居住証がありません。民として入籍できないようになっています。深刻な問題です。

いつも先生に会えば、韓国語であいさつをするのです。あいさつを韓国語でするので、食事の場に参加しても、自分たちの国の言葉で話してはいけないというのです。韓国語を知らなければ、沈黙を守るのです。恥じることを知らなければなりません。目を閉じて恥ずかしさを知るべきです。

真の父母の言葉を学ばなければなりません。赤ん坊は、何か月間かで、すべて学んでしまうでしょう。自分が知っている文化と背景が怨讐です。それをきれいにカットしなければなりません。それがなされずに残れば、皆さんの一族と皆さんの一国を蕩滅条件に引っ張り込んでいくのです。ですから、それを切ってしまうなければなりません。

ジャルジンは原初地です。創造物自体が、総合的に一つの博物館のように集まっているのが原初地です。そこが焦点地域なのです。万物創造の焦点です。原初物が棲息する

その地に行って、三年以上、血と汗を流さなければなりません。三年間、労働しなければならぬのです。なぜでしょうか？ それは祖国光復のためにです。水の中で働くのです。水は世の中を象徴するので、水の中において、天国を建設しなければなりません。真の父母が立てたように、今度は皆さんがしなければなりません。

今後は世界時代に越えていくので、大陸を中心として分別していた時代は過ぎました。これからは、インターネット時代に入るので、国家がすべての情報を管理できる時代は崩れていくのです。百八十五か国のうち、ある一国でも事実を明らかにすれば、そのことを全世界がすぐさま知るようになるのです。隠す必要がなく、情報であれ何であれ、自分の国だけの技術保護であるとか、政治管理であるとか、そのような考えは、もうあり得ないのです。すべてが明らかになります。

その明らかになることは、何のために明らかになるのでしょうか？ ある個人的な団体で明らかにすることも、個人のために明らかにするものではありません。それをすべて大きな袋に入れて、モチをこしらえて、天の国の解放圏、人類解放圏の祝宴のために明らかにするというのです。その祝宴は、万国をすべて統一できる、祝賀の祝宴として催さなければなりません。

すべてのものを焼き払ってしまい、神様の栄光の中で統一された地上天国理念が、新しくインターネットを通して伝えられ、万国の万民たちが、永遠にその理念を称賛しながら、その理念と共に暮らすことを望み、生活過程で涙して慕うことのできる環境が、地上天国になり、天上天国になるのです！ アーメン！

今からどこに行くのでしょうか？ 天国に行かなければなりません、天国です。天国に行こうとするならば、自分たちの生きてきた文化背景やすべてのものを切ってしまい、真の父母の血統的な因縁を中心として衣替えをしなければなりません。真の父母の国を通じなければ、天国に行く道がありません。皆さんは思いのままに行くことができますか？

二世であれ、何世であれ、今までの処遇で終わるのではありません。背中に血と汗が流れなければなりません。神様がむちをもって恨を解かなければならず。ご父母様がむちをもって恨を解かなければなりません。私がこのことを成就するために、そして神様がこのことを成就させるために、どれほど受難の道を経てきましたか？ その何十倍、何百倍の道を歩もうとも「私は行きます」と言える人の姿を見てこそ、神様の前に共に連れて行って暮らすことができ、継承的な民族になり得るという事実を知らなければな

りません。

これからは、先生に会おうと考えてはなりません。山の中に入ります。ヒマラヤの山の中に行って、修行している人々を教育しなければなりません。先生には、道を求めている人々をすべて教育し、天上世界に案内する責任があるのです。自分勝手に暮らしている者たちは、霊界にいるようなものでしょう？ 違いますか？ 地上における霊界のようなものです。精誠を尽くした人たちは、ごみのようにはなり得ません。ごみにならないためには、彼らをきれいにしてあげなければなりません。彼らも自分の名前を持っており、自分の国を記憶していますが、それさえもなくさなければならぬのです。これまで知っている国の法や政治、経済、すべてのものは、統一した世界になれば一元化されるので、法もなくなり、経済体制もみななくなるのです。

今後の政治体制は、政策というものが立てられないのです。政策というのは経済にだけ存在するのです。世界を統一し得る経済体制を管理できる責任者、それが大統領です。政治論理としての政策というものは、あり得ません。

愛の政策が、個人、家庭を中心として、氏族、民族、国家、世界、宇宙まで連結しています。行くべき点を中心として、物質を中心として、いかに豊かに暮らすか、誰が分配し得る制度的な基準を確実にするか、というのが政治体制なのです。

国連もそうです。管理体制にしかなり得ないのです。万国の財閥たちは、大声を張り上げて、自分の所有になりません。国連の決裁を受けなければなりません。国連の管理体制に入っていくのです。入っていく前に、神様の前に登録し、神様の名前を書いて、入っていけというのです。それでこそ、その万物が神様のものとなるのです。

神様のものにならなければ、人間の前に、永遠に、数百年が過ぎても、その物質が与えられずに、蕩滅させられることもあるのです。先生が命令したにもかかわらず、息子や娘を自分のものとして心配し、自分のものとして田畑を使おうとする者は泥棒です。その万物は盗品のようになります。贓物ぞうぶつの概念となるのです。それを知らなければなりません。

ヤハウエの全権時代においては、私と共に苦痛を受けた神様の心を解くべき課題が残っているので、無慈悲に分別しなければなりません。真の愛というのは天理を立てるためのものです。愛も原理原則によるものです。愛も原理の上にあるのでしょうか？ そうでしょうか？ 自由も原理主管圏、原理の上にあるのであって、原理を否定するものではありません。同じことです。適当では通じないのです。

これまで先生は体でサタンを屈服させてきました。昔、私は平壤で「ムーダン（靈通者のようなもの）」として有名になりました。誰か訪ねてくるかあらかじめ分かって、「あいつが来た、戸を閉めろ！」と言うのです。そのように生きてきました。ですから、先生に寄ることができずに、みんな逃げてしまいました。そのような時が来るのです。私がやらなければ、そうした者を立ててもやるのです。靈界に通じる者を百三十名以上立てて、その過程を経てこそ、天国の門に入らせることができるのです。

お母様を迎えてから、四十年路程の二十年は祈禱しませんでした。なぜですか？ 体をもってみな分かるので祈禱をしませんでした。みな教えてくれるのに、何を求めますか？ それ以上必要なものはありません。皆さんもみな分かりますよね？ 同じです。二十年間、実績がなければ生きられないのです。昼に夜に実績を立てるため……。そして、初めて発表するのです。昨年（一九九八年）八月から、再び祈禱を始めました。お母様にしてみても不思議でしょう。祈禱していなかったのが、祈禱するので不思議なのです。

その期間に世の中をみな料理しなければならないのです。そうしてこそ、実体圏の復帰がなされるのです。原理に合っているでしょう？ イエス様が靈的実体圏をすべて勝利しておいたので、肉的な実体家庭圏を復帰するのです。靈界の協助力なしに、すべてを私自身がするのです。それは神様も命令できないのです。

家庭的な解放圏は、先生を通じてこそなし得ます。家庭を中心としてサタンと闘っていたすべてを休戦させることができるのは、真の父母をおいてほかにありません。神様も休戦させることができません。世の中にそうした秘密を教えてあげるのに、この者たち！ そうしたことを聞いても、夢か幻のように思っているのです。命懸けで骨髓を溶かしながら、勝利の立て札を立てるために千辛万苦の闘いの生活をしてきたのに、この者たち！ 平安に暮らしています。豊かに暮らしていけるか、見ておきなさい。

今後、そのような者はすべて自ら退いていく時が来ました。実績のない者は、神様にとって必要ありません。愛を中心とした実績が必要です。ですから、皆さんも三六家庭、七二家庭、一二〇家庭と、一族を治めてこそ天国に入っていけるのです。それができなければ入籍できません。原理がそのようになっています。

ここにも実績のある者だけが集まる時が来ます。誰もが先生と船に乗るというわけにはいきません。このように万国に門を開いたにもかかわらずです。成約時代の完結を越えていける時になったので、原理のみ言の通りに絶対信仰・絶対愛・絶対服従するとい

う、神様の創造理想圏の基盤に上がって立つ者は、誰でも解放圏に入っていきます。万国平和統一の選民族になるのです。

選民はいません。再び選ぶという意味での選民族なのです。選民ではありません。イスラエル民族、キリスト教、選民圏がすべて責任を果たせなかったので、再び世界をまとめて新しく選んだ選民、選民族なのです。そのようなことを、今やっているという事実を知らなければなりません。

先生は、韓国と日本とアメリカが、今や一つの国であると言ったでしょう？ 日本の首相とアメリカの大統領と韓国の大統領の三人が一つになれば、統一天下になるようになっていきます。それができないので、国連を中心として、殻を剥がしてしまおうというのです。

父と息子、父子が一つになるときは、家庭はいくらでも築けます。息子の家庭も築け、父の家庭も築けます。父一人はだめです。息子一人でもだめです。息子がどうして父の家庭になれ、父がどうして強制的に息子の家庭になれるのでしょうか？ 父子が一つにならなければなりません。

母子が一つになって復帰しましたよね？ 今は父子が一つにならねばならないのです。「父子一体は万事能通」なのです。皆さんはこれから戻って祝福を受ければ、母親の言うことではなく、父親の言うことを聞かなければなりません。大きくなって母親の言うことを聞けば滅びます。雌の鶏が鳴くと何ですか？ 家が栄えると言われていませんか？ 滅びると言われています。それでは雄の鶏が鳴くとどうですか？ 反対ですから、雌の鶏が鳴けば滅びるならば、雄の鶏が鳴けば家が栄えるという意味ではないですか？ 統一教会の信徒たちは、雄の鶏が鳴くのです。

男性の権威を取り戻すのです。天使長ではありません。愛の権威を取り戻すのです。浮気をして妻に「こいつ、何だ！」と言われたり、顔を引っかかれて追っかけられる者ではありません。先生は堂々たる者なのです。お母様の前にも堂々としています。お母様が知らないことはありません。やれば、すべて話すのです。堂々たる者です。

そうです。私がお母様を高く仰ごうというのです。昨日も魚を捕るチャンピオン・シップについて話をしました。それはお母様を高めるためのものです。お母様は二つの立場です。息子の母の立場であり、お父様の妻の立場です。それを公認したのです。

ですから、私もお母様に対して「お母さん」と言います。母親の乳を飲もうとすれば、乳を飲ませなければなりませんか、飲ませてはいけませんか？ 息子が「乳を飲む」と

言えば、飲ませなければなりませんか、飲ませませんか？ 乳を飲ませなければなりません。また夫として愛のキスをするのも、内法です。三段階の内法なのです。

妻が横たわっていたら最初に口をつけるのがどこですか？ 乳房ですね？ 乳房を二つ持っているのに、それをそのままにして行けますか？ 乳房にあいさつして、それから本宮を訪れていくのです。それが「草庵」です。口が愛の「幕舎」です。男性が最も好むものです。女の赤ちゃんよりも、男の赤ちゃんが最も好きなのがお母さんの乳であり、妻の乳なのです。

皆さんもそうでしょうか？ 最も好きなものが何ですって？ 口と胸です。口、胸、それから聖所です。み言自体もみ言の完成なのです。

愛ゆえに自らの生命を放棄しなければなりません。しっかりと節操を守るためには生命を放棄しなければならないのです。生命を放棄することがあっても、愛を破壊することはできません。これが天に侍る統一教会の天理の道理であるということを知らなければなりません。

先生は自らの体をコントロールできる訓練がなされています。そうでなければ、神様の子女になれません。自分がきわめて愛する者を怨讐の前に差し出して、福を祈ってあげながら「私の代わりに、私以上に愛してください」と言える心を持ってこそ、神様の心情を理解できるのです。

きょう、そのようなことをはっきりと知って、全般・全能世界の相続者になれということです。サタン世界に勝たなければならないのです。サタンの権限に勝つのです。大統領に出馬しますか？ 国会議員をやりますか？ そのようなことは願いません。大統領とか何とか私には必要ありません。それをいかに処理するかという問題が私にかかっています。容赦なく無慈悲に押し倒す時が来るというのに、どうしますか？

ですから、先生を悲しませるなということです。先生が血を見る日には恐ろしい男になるのです。それで魚もみな大きな魚を捕りました。最初は、魚を捕るときに「これをやらなければ」と言って、興奮しながら喜んでいました。最近では血を見ると、身の毛がよだちます。釣りの時代は過ぎました。昨年「釣りの時代は終わった」と宣布しました。

今からは、育てなければなりません。捕って食べるのではなく、自分が食べるものは、自分が育てて食べるのです。自分で農作業をして食べるということです。私が息子なので、そうすべきではないですか？ 神様が農作業をなさることはできません。

きょうからは大移動が起こります。それで五十名ずつ来るように言いました。五十の峠を越えなければなりません。ぴったり五十の峠がなければなりませんか？　ぴったり五十の峠で会って、ストップしなければなりませんか、越えなければなりませんか？　越えなければなりません。

それから、五十以降は、七十に合わせるかもしれません。ここに来ていたアメリカ東部の責任者がどのような者ですか？　その者たちはみな日本行きです。また日本から来た五十名は皆アメリカ東部に行かなければなりません。息子の家を訪ねていくのです。息子の国を愛さないといけないでしょう？　お母さんも行って愛するべきでしょう？　そうすべきです。

長子圏の国ができたならば、その国がお母さんの愛する国にならなければなりません。お父さんも愛する国になるべきでしょう？　長子圏を築いたので愛さなければなりません。お父さんも愛するのです。イエス様をベルベディアにお連れして、住まいを設けたのです。皆そうしたでしょう？　去年の四月十七日にやりました。

祝福は一九七三年の一月三日に祝福しました。数十年間、独身生活をしたのです。なぜですか？　国家的な基準、世界的な基準に行けなかったからです。その基準を越えて、すべて祝福の日を準備してあげたのです。国家的な基準、世界的な基準に育て、家庭的な同参権を与えて、聖人たちを祝福に加担させませんでしたか？　それで世界を越えていくのです。それ自体が霊界と肉界を中心として世界的な時代に入っていくのです。

今は国を探すために文先生が闘う必要はありません。先生はアメリカの大統領に命じることができ、韓国の大統領に命じることができる実力を持った者です。自然屈服の基台は青少年です。幼稚園、小中学校、高校さえ教育すれば、その国は天国になるようになっていきます。それで何を教育しなければなりませんか？　純潔教育をしなければなりません。それでこそ、純潔な子女として結び合わせることができるのです。エデンの園でアダム、エバを誤って結び合わせました。その時代に入ってきたというのです。

ですから、兄弟以上に愛しながら守れというのです。何を守らなければなりませんか？　エデンの園で純潔を守ることのできる者が墮落したので、「自分たちはそれをお互いに守り、真の父母が立てた国を浄化し、世界を浄化しよう」と言うのです。自分たちの家庭がそのようなことを成すのです。

韓国の伝統を学ばなければなりません。アメリカ人も日本に行って二十日ではなく四十日、行ってすぐに、日本の責任者として説教してみるのです。お互いに入れ替わって

尽くさなければならぬのです。一つにしなければならぬので、日本人がアメリカの教会に行って責任者をしてみなさいというのです。通訳をさせながら説教することが、どれほど大変かが分かります。先生が、そのような道を開拓したという事実を知らなければなりません。私たち統一教会の食口たちは、韓国語はもちろん理解すべきですが、その理解する国の代表がアメリカの国であり、日本の国であるだけに、この二か国の言葉は学ばなければなりません。日本も、父の国の言葉と息子の国の言葉を学び、息子の国も母の国、父の国の言葉を学ばなければなりません。それは仕方ありません。そこに加担できなければ、脱落者になるのです。

まだ決めていません。天の指示を受けて、四十日か二十日後に決定するのです。忙しいときは二十日で決定するのです。それでも損はしません。四十日間、二か月間、そして、九月、十月、十一月、十二月まで四か月を考えています。その間に、完全に一つの国の伝統思想はこうであるという、骨髓に染み得る幸福圏を、この三か国の責任者が共有するのです。韓国と日本は一つの国です。

皆さんに国を憂う情がありますか？ 国のために生きる何かがありますか？ 大学院を出て就職した者たちはすべて脱落者です。UTS（統一神学校）に行くか、ブリッジポート大学に行けというのです。ブリッジポート大学にも宗教科があります。大学院の課程も設けました。そこを経なければ、公的に用いることができません。

あなたたちと先生は、どのような関係ですか？ 父子の関係です。父子の関係は、蕩滅復帰です。蕩滅の内容を立てなくては、越えていける道はありません。蕩滅条件を提示するのです。先生が八段階の蕩滅条件を独りで開拓したのです。それを受け継ぐためには、その峠において涙を流しながら待ったという歴史がなければなりません。違いますか？ 先生が苦労したその道を相続しなければなりません。体に千斤万斤の砂袋を背負って相続しなければなりません。自分の精誠が足りずに及ばないので、荷物を背負ってその道を行くのです。裸一貫で汗を流しながら行くべき道が残っているのに、何もせずに越えて泥棒になるというのですか？

父母と子女は必ず蕩滅復帰です。神様がどれほど私を試みられたか分かりません。無慈悲な神様です。これまで一度も称賛してもらえませんでした。称賛が何ですか？ 昔は何もかも教えてもらってやりましたが、これからは教えてくさいません。教えてくさいとも言わないのです。みな知っているからです。私が行く道を知っています。行けば行くほどに困難な道です。

今日は「七・八節」です。「全般全能」です。ヤハウエを中心とした「全般全能」の行使を宣布した日です。これからはここに来て祈祷します。氷山で祈祷して、この周辺の土地を買い入れて、見張り場をつくります。昼に夜に鳴き声が聞こえてくる聖地になるでしょう。場所はあるので、建てさえすればよいのです。

先生は夢見人ではありません。実践するための計画を立てるのです。分かりましたか？ 皆さんも実績がなければ、だめだということを知らなければなりません。実績を忘れるなというのです。実績が必要です。

そのように理解して、自主的な権限をもって現れるのです。王子、王女の現れる権限、大王陛下の実績をもって祭祀をし、神様を感動させ、祭司長までもこなすのです。

天の「全権・全能」の顕現において、私が必要な足場となるために努力し、決心すると誓わなければなりません。